

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		満天の丘 いちばん星		公表日 2025年 3月 3日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童数に応じて、部屋を分けたり屋外での遊びを行う等の配慮をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			職員数は適切だが、急な欠席にも対応できるよう、代替職員を安定的に確保できるよう努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		環境統制に配慮し、視覚優位な児童に向けての見える化を図っている。	トイレのバリアフリー化に関しては、借用施設の為改修は難しい状況。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃と消毒を行い、衛生面に配慮。活動場面により、適切な場所に変更している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部屋の用途によりルールを設けながら、自由に使用できている。大人の見守りと安全面に配慮している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティングや会議等で、業務の振り返りを全員で話し合い、改善を図っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			会議の中で評価結果を共有し、保護者様の意見について話し合いを持ち、改善につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日頃より、全職員が意見を出し合い、環境面や支援内容について改善を図っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		地域の有識者2名の方に、評価結果をお伝えしご意見をいただいている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修の他に、毎月内部での研修日を設け、様々なテーマで学んでいる。	内部研修として、職員の発達に関して学びたいという意欲に応えられる、動画視聴等も検討していきたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、HPIにて公表。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者様とお子様の発達に関して話を伺い、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画の作成や日々の支援では、子どもを主語にした話し合いを重ねている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援会議を行った上で、計画を完成させている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	—		医療や教育機関で、適宜行われている検査結果等を、情報共有させていただき対応しています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		お子様の状況に合わせて、ねらいや支援内容も考慮している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動会議の中で、全員で話し合いを持ち決定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		粗大運動、微細運動、季節の製作、調理等、曜日も含めてバランスよく体験出来るよう配慮している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		状況に応じて、個々に合った活動や支援の提供を心掛けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝のミーティングにて、役割分担も確認し支援にあたっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終了後に、報告、連絡、相談を行っているが、退勤時間を過ぎる時は、翌朝全員で情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		HUGのシステムを導入し、記録全般を全員がいつでも確認できている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者様のご都合に合わせて、随時担当職員との面談等を行い、計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「自立支援と日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流の機会の提供」「余暇の提供」を意識して組み合わせている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		日常的に、自己決定、自己選択できるよう支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		各関係機関と、日常的に情報共有を行うことが出来ている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校コーディネーターの先生と、随時情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		発達支援会議に参画したり、随時情報共有も行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		保護者様の依頼を受けて、事業所等への情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターが主催する研修会に出席して、児童発達支援の児童に関して助言をいただいている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	—		現在の利用児童は、日常的に交流級や少年団、習い事等で他の子どもと活動している為、あえてその機会は設けていない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会の委員として、会議に出席している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日常的に、ラインやHUGの記録、送迎時、電話等でお子様についての情報共有を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		子育てサロンにて、性教育に関する内容や、アンガーマネジメント等の研修会を開催している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に、保護者様にお時間をいただき説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		作成にあたり、配慮を必要とする点や、支援にあたっての要望等を確認。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画内容説明の際に、保護者様に確認し同意をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			ご相談いただいた際には、お力になれるよう心掛けているが、今後も保護者様との信頼関係を築けるよう努めていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			地域交流や子育てサロン等で、交流の機会を設けているが、多くの保護者様が就労により参加が難しい状況。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情を受けた際には、迅速に対応できるよう心掛けているが、今後も早期に問題解決出来るよう努めていく。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、通信にて、いちばん星と輝星の情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		守秘義務と個人情報保護について、職員研修で確認している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個別に、より伝わりやすい配慮を心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		毎月、地域交流や子育てサロンにて、地域の小規模多機能型事業所との草刈りやスイカ割、流しソーメン等で交流している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは玄関に設置し、自由にご覧いただけます。また、発生を想定した訓練も実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定しているが、非常災害の非該当区域でもある為、避難訓練の中で併せて実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		利用開始前に、疾患や服薬情報なども確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医療機関での検査結果の写しをいただき、おやつや食育の際に都度、保護者様に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、毎月安全点検チェック実施。車両には置き去り防止アラームを設置し、希望者にはジュニアシート等も使用。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画策定について、保護者様一人ひとりにご説明している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			ヒヤリハットの事例は、積極的に記載するようにし、全職員で共有し事故を未然に防げるよう活かしていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、虐待防止研修も実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		虐待防止研修の中で、身体拘束についても全体で共有。対応が必要な児童には、随時説明をした上で計画に反映していく。	